

ばってん

事務長会報第55号
令和6年3月31日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎北高等学校内

〒851-1132
長崎市小江原1-1-1
電話 (095) 844-4411

恩返し

総務部長（壱岐高等学校） 谷川 由佳

「啐（そつ）」雛がかえろうとする時、卵の内から殻をつつくこと。

「啄（たく）」親鳥が卵の外からつつくこと。

壱岐高校に寄贈された石碑の文字です。

学生気分が抜けないとんでもなかった私を、これまで33年間、辛抱強く見守り導いていただいた親鳥（上司・先輩）にたくさんの感謝をしながら日々を送っています。

ある親鳥からは「母親の代わりはいないが、仕事の代わりはいくらでもいる」自覚と責任のなさを猛反省したと同時に、絶対に負けないと殻の中で誓ったことを鮮明に覚えています。喝の言葉に感謝です。

ある親鳥からは「だいじょうぶ大丈夫。間違いないから思い切ってやりなさい」常に見守ってもらい、極限の状況に殻の中に酸素を送り込んでいただきました。救われた言葉に感謝です。

ある親鳥からは「何事にも心をこめて」達成感や喜びを感じながら仕事するノウハウを学びました。負担感や多忙感から救ってくれた魔法の言葉に感謝です。

事務長として2校目の壱岐高校で、この石碑と出会って3年経った今、やっと「親鳥」になれたかなと思うこの頃です。

長崎県民ながら、3年前に初めての壱岐島上陸、そして初めてのワクワク一人暮らし。壱岐は「魏志倭人伝」や「日本書紀」に登場し、弥生時代から海上交通の要衝となった歴史があり「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」として平成27年に日本遺産に認定されています。日本三大遺跡の原の辻、美しく壮大な自然、日本渚百選の海、食の宝庫（壱岐牛・魚・ウニ・米）、南北17キロ東西15キロの小さな島ですが、衣食住全て兼ね備えた最高の島です。日々の忙しさの中で、心地よく穏やかに過ごせている壱岐島に感謝、そして、長崎の魅力を発見できたと共に、ヒヨコから親鳥に成長させていただいた壱岐高校へ感謝です。しかし、重量が順調に伸び続けており、それを止めるのがこれからの課題でもあります。

ところで、昨今の目まぐるしい時代の変化に伴い、業務の煩雑化・多様化・業務改善・監査対応・・・何かとマイナスな言葉に囲まれた事務室。業務に追われ一日が終わってしまい、コミュニケーションや人との関わりが希薄になっている様な気がします。

まわりの人を頼って、できる人になっていこう、わから

ない時は自分一人ではできないことを認め、自分よりもできる人へお願いできるようになろう、チームで仕事をする組織が求められています。

AIの進化で教育事務がなくなるとも言われていますが、行政の立場で提言する事務室は、学校経営には必ず必要です。そのためには、仕事の先にある「生徒が喜ぶ姿や成長していく姿」を想像したり、事務室から一歩出て探究したり、先生と雑談して意外な発見を見つけたり・・・日々の「気づく・考える・行動する」ことが求められる時代に対応できる事務職員を育成することが、事務長の職務と考えています。

そのためには、自らが視野を広げ、学びを深め、ライフワークバランスに努めながら、豊かな人生を送りたいと思っています。

早くもなく、遅くもない、「その時」を見逃さず、どこを破ればいいのかそっと示して、その成長を促してあげられる親鳥でありたいと共に、これまでいただいた感謝の「恩返し」の時です。

最後に、事務長会重鎮の方々が執筆されるこのページに、なぜ私なのか未だにわかりませんが、せっかくいただいた機会に、これまでの思いを綴らせていただきました。文才のない頭の中を見られて恥ずかしい限りですが、これから多くの方が様々な思いを伝え合い「つながり合い高め合う事務長会」の一助になれば幸いです。そして、今年8月に開催される全国事務長会、百年に一度の大変革のこの瞬間、長崎県事務長会の皆様、心をこめて長崎の魅力を全国に発信しましょう。



「いしばし屋」何時ですか？

長崎東高等学校 草野 悦郎

これまでの勤務38年を振り返ってみました。私は昭和61年度の採用で、新任の3年間は、五島で釣りをしながら幸せな日々を過ごしておりましたが、平成元年度に教育事務所に転勤となり、そこから教育行政にどっぷりと浸かってしまいました。

高校の統廃合や離島留学、教会群、しおかぜ総文祭、佐世保事件への対応や、旧県庁舎跡地の発掘調査などは、特に思い深く、心に残る仕事となりました。

人は、出会うタイミングで、出会うべき人と出会うとよく言われますが、私の場合は、教職員課給与班の時に、声をかけてくださる先輩と愚痴を言える仲間と出会い助けていただきました。苦労した仕事ほど記憶に残るもので、今でもそのメンバーと会えば、NHKプロジェクトXのテーマソング（中島みゆきの地上の星）の音楽が頭の中で流れ始めます。失敗しては怒られ、反省会と言っては酒を飲みに行く、そうしたかけがえのない仲間と過ごした時間は、私の大切な心の拠所となっています。異動で、仲間とは職場は変わりましたが、今でも顔を合わせれば「いしばし屋」何時ですか？これが合言葉になっています。（いしばし屋さんは、樺島町にある角打ちの酒屋さんの屋号です。）

これまでに様々な条例改正に携わりましたが、現在、勤

務している長崎東高校への県立中学校の設置条例も、20年前に私が担当しました。自分が最後に勤務した学校で20周年の行事をするなんて、つくづく縁があるものだと感じています。教育は、未来への投資だと言われますが、私が携わった高校生文化の祭典、2013「しおかぜ総文祭」で国歌独唱をしてくれた富永果捺子さんは、新人演奏会でグランプリを受賞、現在は、ソプラノ歌手になられています。当時、高校生だった皆さんが活躍されている姿を見ると、とても苦労が報われた思いがして、うれしい気持ちになります。

来年は、国民文化祭「ながさきピース文化祭 2025」が開催されます。

当時の高校生だった皆さんが長崎へ戻ってきて、大会を盛り上げてくださることを心から期待しています。総文祭のマスコット「美龍」とともに、皆さんの活躍を願っております。



最後列右から2番目ピースサインが私です。



趣味

佐世保北高等学校 谷本 秀紀



数十年来、趣味の欄に「スキー」と書いてきました。大学生だった80年代に始め、長崎に帰ってきてからは、年1回、できれば北海道に行くことを目標に、夏が終わる頃の

ツアー発売開始と同時にメンバー集めからスタートし、1月か2月に出掛けるまでの実にワクワクな数か月を過ごしてきました。

大自然の中を、風を切って滑降する爽快さは何事にも代え難いもので、時間的、経済的事情が許せばゲレンデ詣での頻度を上げたいものですが、西の果ての地で生業を得ている身としてはそれも叶わず、ある時期まで、退職後の北

海道移住を真剣に考えていました。

移住プランは、3～4日間という短い期間滞在した時の体験と記憶がベースとなっており、雪かきなど日々生きていくための苦役はまったく頭にありません。加えて、年々衰えてくる体力も考慮しておらず、シーズンチケットを買って好きな時に滑りに行くという計画は、実行されそうにありません。更に言えば最後に滑った2018年の蔵王では、初日の夜、ホテルの風呂場で他人のシャボンで足を滑らせたはずみに骨折し、2日目以降は整形外科通院と蔵王観光しかすることがありませんでした。それ以来、板を履いていません。

リタイア後が目前に迫っています。妻が言う「仕事人間」を脱する必要があるそうです。まずはスキーに代わる趣味を見つけないといけません。最初に頭に浮かんだのは「健康麻雀」です。そう言えば、「数独」は毎日1～2面挑んでいることにも気が付きました。（どちらもあまり健康的とはいえませんが・・・）

皆様、大変お世話になりました。全国大会の成功を祈念しつつ筆をおきます。

2度目の対馬高校！

対馬高等学校 岡村 俊治

最初に対馬高校に赴任したのは平成15年4月、その後3年間勤務し、17年ぶりに対馬高校へ異動となりました。

本校は、明治38年に対馬中学校を開校し、令和7年度に創立120周年を迎える歴史と伝統のある学校です。私自身、前回勤務していた平成17年度に創立百周年の節目の周年事業を経験させていただきました。

対馬高校は、普通科、商業科、国際文化交流科からなり生徒382名が在籍しています。施設としては、間もなく築

50年を迎える校舎をはじめ、職員住宅6棟、寄宿舎2棟を管理しています。あと離島留学もあります。

県教委11年、知事部局2年を経て久しぶりの学校勤務で、年度当初バタバタで訳もわからず業務に追われる日々を過ごしていましたが、赴任して間もなくの時に管理棟が雨漏りしたかと思うと、次に特別棟、さらに体育館、挙句には寄宿舎ボイラー管破損によるボイラー室水浸しになるなど水に悩まされていますが、施設担当者と一緒に水難対策に取り組んでいます。

体育祭前の除草作業、文化祭でのカレー炊き出し、広報活動などPTA活動も活発で、今年度、対馬高校PTAが優良PTA文部科学大臣表彰を受賞しました。これもひと

えに、前事務長とPTA会長の猪突猛進的な行動力のたまものだと思います。私自身も、グラウンド除草作業の際に、PTA会長が運転する高所作業車に乗せてもらい写真撮影を行いました。

あれこれバタバタしているうちに半年が過ぎ、1年が過ぎようとしています。

何でも気軽に相談できる事務室を目指して、事務室職員と一緒に頑張っていきたいと思います。今後とも、対馬高校事務室一同、よろしくお願いします。



新任事務長として

諫早特別支援学校 渡辺徳一郎

【自己紹介】

4月に諫早特別支援学校に新任事務長として赴任しました。平成9年度に学校事務に採用され、初任校が島原養護学校南串山分校。次に奈留高等学校と学校に計8年間勤務して以来、18年ぶりの学校勤務となります。学校勤務が久しぶりで、かつ事務長職は初めてですので、正直なところ、まだ業務についての理解が十分でなく戸惑う日々が続いている状況です。



【学校紹介】

学校の紹介をほんの少しだけさせていただきます。昭和39年に、本県で最初の肢体不自由児童生徒対象の養護学校として設置された本校は、来年度の令和6年度に創立60周年を迎えます。また、今年度7月に終了した建物の新築工事、来年度実施予定のグラウンド整備等、大規模な施設の整備が行われています。このような特別なタイミングで赴任させていただいたことに感謝しております。

【目指す事務室】

事務室においては、現在素晴らしい職員に恵まれており、そのことは大きな強みと考えております。今後も、皆さんが業務に集中できるよう快適な環境を整え、事務室一丸となって、円滑な学校経営に寄与できるよう頑張っていきたいと思っております。

【まとめ】

本校の児童生徒のためにより良い教育環境を築いていくことが最も重要です。できる限り様々なニーズに寄り添い、その成長を支えることができるように努力していきたいと考えております。

今は不慣れなことばかりですが、校長先生をはじめとする職員の方々、先輩事務長の皆様にご指導を仰ぎ、日々学びながらやってまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

新任事務長としての抱負

国見高等学校 松田 浩史

4月から国見高校に新任事務長として赴任して8か月が過ぎようとしています。往復100キロの慣れない車通勤も、今では大切なプライベート空間になっています。毎日変わる普賢岳の景色はとても雄大で心が和みます。

私は平成14年度採用で、最初の4年間は高校勤務でしたが、その後はずっと県教委勤務でした。県教委ではたくさんの業務を経験させていただいたのですが、特に大きな学びとなったのは、「第二期長崎県特別支援教育推進基本計画」の策定に関わったことです。策定するにあたり、現状の分析と課題の洗い出し、諮問機関の設置と意見の聴取、意見を踏まえての施策の検討、パブリックコメントの実施や財政課との調整、定例教育委員会への付議や議会への報告、計画の周知・広報など完成までのステップがとても長くて大変でしたが、行政手続きの一連の流れを経験でき、とてもいい勉強になりました。事務職は一人だけだったのですが、課の先生達と今後の本県の特別支援教育について議論を重ねたことはとてもいい思い出です。

17年ぶりに学校勤務になって驚いたのは、様々な会や動員等の多さです。役職や教科ごとに研究会等があり、しかもそれが地区や県、全国まであります。これは一例ですが、

学校現場は、社会のニーズや様々な政策で業務が積み重なり、余裕がなくなっているように思えます。「人生は積み減らし」という岡本太郎さんの言葉がありますが、学校の業務についてもその目的や必要性を再考し、本来の目的を失い形骸化しているものや、優先度が低いものは止める判断も必要です。

事務長として赴任し、わからないことばかりで、日々奮闘していますが、まずは必要なスキルを身に付け足元を固めたうえで、学校内外の業務改善についても、行政的な視点からの提案や判断ができるよう経験を積んでいきたいと思っております。ご指導よろしくお願いいたします。



成長を促してくれた担任教師の存在

教職員課 課長 高稲 稔也



大学卒業後、県職員として社会人生活を始めて30年目であった昨年度のあるときに、これまでの自分の人生に多大な影響を与えてくれた人物は、親族以外で誰だろうかと考えることがあった。そんなことを突然考えたのは、知事部局の事務職員として採用後、昨年度初めて教育庁で勤務することになり、学校が仕事に関わる身近な場所として認識するに至ったことなのかも知れない。

自身に多大な影響を与えてくれた方は、これまでの出会いで数多く存在するが、中でも強く印象に残っている方は、中学1年生時の担任教師だった。先生は、生徒の成長のために自身ができることをひたすら実践しようとする思いが強烈に伝わってくる熱血教師だった。そのクラスで私は、特に目立つことのない生徒だったが、2学期にクラス委員長を務めることになった。誰も立候補しない中、なんとなくという程度で選ばれたのだろう。

中学校卒業時の先生への印象は、お世話になった先生の一人であって、特別の感慨を抱くことはなかったが、今思うと、先生は、物事の本質をひたすら考え抜くことの重要性や、その時々置かれた環境で自分に何ができるか、自発的に考えて役割を全うするための姿勢を植え付けてくれた方であった。

当時のエピソードとしては、クラス内で看過できないトラブルがあると、放課後にクラス全員居残りで、どうしてこのことが起きたのか、その際、各自はなぜ今の行動をとったのか、あるいは取らなかったのか。さらには、今後、具体的にどのように行動したほうが良いのかといったことを生徒同士でとことん意見を交わし、その結果を発表することなどをしていた。何か事件めいたことが起きると、その事件を議題にして、話し合いの場が設定された。私はクラス委員長として司会をするのだが、毎回、うまくいかずに試練だった。先生は、生徒の議論や発表を見守り、時に議論が進まないと途中で助言するなどしたうえで、最後に先生自身の思いを話してくれた。後日、そうした一連の内容が、クラス通信として配布され、学校生活で起こった出来事を保護者に紹介していた。毎回、面倒だなと思うことの連続だったが、授業とは違う学びの数々だったのだろう。

文化祭の出し物も他クラスとは準備に要した時間や労力が相当違ったようだった。高さが2メートル超の堅穴式住

居をグラウンドの端に作るようになったのだが、授業時間内では準備が間に合わず、放課後や休みの日も作業を行い、文化祭直前に何とか完成した。完成前には、安全祈願（棟上げ式）で、少し高い場所から餅撒きならぬ、菓子撒きをしたことも覚えている。何かと苦労が多かった分、完成した喜びを純粋に感じる事ができた。文化祭当日も、多くの人が集まってきて、注目されていた。

夏休み期間には、校外活動として、約15キロのウォーキングを行った。午後から、大村市内にある先生宅に集まり、諫早市内の中学校までの薄暗くなる道中を会話しながら一歩ずつ。また、クラスの行事として、少年自然の家での体験学習に参加した際にも、往路は、諫早から千々石までウォーキングだった。無事に到着し、疲労感と達成感を味わったことも思い出の一つである。

当時の先生にとって、私たちとの出会いは、毎年の教員生活の中の一コマであって、特別の感慨は無かったのかもしれない。また、今の時世では、このような活動の数々は、時代遅れであって、決して褒められることばかりではないだろう。

それでも、当時と変わらず今も何ら取柄がない私にとって、与えられた役割を愚直に取り組む姿勢を今も持ち続けることができているのは、その礎を築いてくれた先生のおかげであり、心から感謝している。

(以上)



諫早市内から千々石町までのウォーキング出発式の様子。
校舎の建て替え時期で、新旧校舎が並んでいました。

編集後記

第55号を発行するにあたり、ご寄稿くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

さて、今年度60歳を迎えられる、9名の皆様が事務長会を退会されます。皆様が生を享けた昭和38年度は高度経済成長期の真っ只中。当時の社会情勢は人々の働き方を変え、農家では働き手である男性が出稼ぎに行ったり、農業外の職に就いたり、「三ちゃん農業」が流行語になったそうです。

現代においても、様々な業種の働き方が、少子高齢

化や労働力人口不足等を背景に大変革期を迎えています。私たち公務員は、今年度が定年引上げ「元年度」、定年退職者「0（ゼロ）」というレアな現象が生じます。退会者への「長い間お疲れさまでした。お世話になりました。」はもう少し先まで温めておきます。

「こんにちは赤ちゃん」は昭和38年のヒット曲。赤ん坊に戻る還暦は、新たな人生のスタートです。皆様には、まだまだお元気でご活躍されることを祈念いたします。
(M・K)